2023年11月26日礼拝説教要約

ローマ人への手紙に聴く㉒

「あわれみの器として」

（ローマ9・19～29）

一、創造主なる神と私たち

パウロが書き送ったローマ人への手紙によれば、ローマ人の平均的な姿は、私共よりも論理的に考えることができ、白黒をはっきりさせる性質であったと思われます。19節で、こう語っているからです。**〈すると、あなたは私にこう言うでしょう。「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか。」〉**と。

前後関係のつながりで読んで行くと19節の意味が分かります。18節でパウロは、**〈ですから、神は人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままに頑なにされるのです。〉**と語りました。すなわちパウロは、エジプトのファラオのことを語っています。かつて神は、ファラオをとおして神の御力をあらわされました。ファラオのかたくなさによって、出エジプトという壮大な出来事が起きたからです。そういう意味で、ファラオは用いられました。ですがそれは、ファラオが神のつくられたシナリオどおりに動き、用いられたという意味ではありません。神がファラオの行動をも予知され、結果としてご計画が進んで行ったという意味です。そういうわけで、最後の審判の日に、ファラオはさばかれます。律法を知らなかった者としてです（→ローマ2・12）。

ところがローマ人の思考によれば、神がみこころのままに人を操り、ご計画を進めて行かれるなら、ファラオを責めるのはおかしいではないか、という議論に発展したようです。そのことを察知して語ったのが、19節でした。もしここにいる私共が、「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか」と語るとすれば、次のように語ることです。「神よ、責任はあなたにあります。あなたがファラオを、そして私を、そのように造ったから、こうなりました」という理屈です。もし私共が、自分で決断できないように造られているなら、その人が責任を負うのはおかしいです。ですが神は、人を神のかたちに似せて創造されました。すなわち自分で決断する者として造られました。

二、あわれみの対象として

20節をご覧ください。**〈人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるでしょうか。〉**とあります。私共は何かと自分に不満を持つものです。「どうしてもっと健康な体に生まれなかったのか」「どうしてもっと賢い人間に育たなかったのか」「どうしてもっと器用な人間にならなかったのか」と。ですが、21節をご覧ください。**〈陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。〉**とあります。神は私共一人びとりを、様々な器として作られました。あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器にです。どのような器が作られるかを決めるのは、陶器師にたとえられている「神」です。たいせつなのは、尊いことに用いる器であっても、普通の器（→旧新改訳は「つまらないことに用いる器」、口語訳と聖書協会共同訳は「卑しい器」）であっても、神のあわれみの対象であることです。22節をご覧ください。**〈それでいて、もし神が、御怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、滅ぼされるはずの怒りの器を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか。〉**と。神の怒りは、尊いことに用いる器に下らず、普通の器に下るというものではありません。罪、すなわち人が本来のあるべき姿でない状態、あるいは創造主に反逆している状態に対して常に臨んでいるものです（→ローマ1・18、2・5）。それは、ユダヤ人も異邦人も同じで、私共は**〈滅ぼされるはずの怒りの器〉**でした。もちろんその中に、パウロ自身も入るという意味で語っています。当然、生きている人間すべてが入ります。ですが、**〈豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか〉**とあります。神は、**〈滅ぼされるはずの怒りの器〉**を**〈あわれみの器〉**とされました。23節です。**〈しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか。〉**と。その**〈あらかじめ備えられたあわれみの器〉**とは、だれなのでしょうか。24節をご覧ください。**〈このあわれみの器として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。〉**とあります。**〈私たち〉**とは、主イエス・キリストを信じるユダヤ人であり異邦人です。

三、私たちはあわれみの器

主イエス・キリストを知りますと、すなわち神が遣わされた救い主と信じますと、世界観がまったく変わってしまいます。天地万物を造られた神が、私たちの味方であり、恵み深いお方になりました。私共の不義（＝罪）のゆえに敵対しておられた神が、主イエス・キリストによって罪の問題を解決されたので、恵み深いお方になったのです。**〈神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。〉**と、ローマ人への手紙8章31節にありますが、まさしくそのとおりです。